

第5期

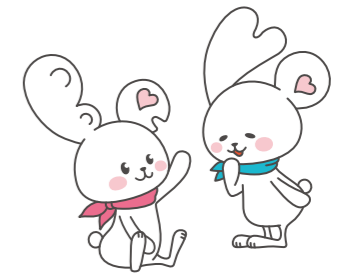
# 山科区

令和7年度 → 令和11年度

# 地域福祉活動計画

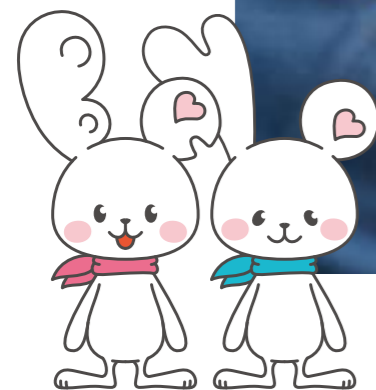
共に生きる福祉のまち — 山科 —





目次

- はじめに ..... 2
- 第 1 章 地域福祉活動計画とは ..... 3
- 第 2 章 第4期 山科区地域福祉活動計画の到達点 ..... 4
- 第 3 章 第5期 山科区地域福祉活動計画の概要 ..... 8
- 第 4 章 第5期 山科区地域福祉活動計画策定に至るまで — 計画に込めたもの — ..... 11
- 第 5 章 第5期 山科区地域福祉活動計画 — 基本理念・基本目標 — ..... 19
- 第 6 章 第5期 山科区地域福祉活動計画 — 推進計画 — 〈推進の柱と推進項目〉 ..... 21
- 関係資料 ..... 26



山科区社協キャラクター  
ビラビ&ボラビ

私たちは山科区の地域福祉活動を  
“ワクワク(和く・輪く・沸く)”を大切に取組みます!

このたび、山科区の皆様からの『声』を中心として、関係者の皆様のお力をいただき、第5期山科区地域福祉活動計画を策定しました。この計画は、令和7(2025)年度からはじまる5年間の山科区の地域福祉の実現に向けた具体的な活動内容が示されています。

前期計画である第4期山科区地域福祉活動計画は、計画初年度である令和2(2020)年度に新型コロナウイルス感染症が流行し、計画されていた取組の多くが実施困難となり、当初は活動が停滞しました。しかし同時に、山科区では感染予防・拡大防止に最大限に配慮をしつつ、そのなかで新たな試みや工夫が生まれ、地域福祉活動の灯は決して途絶えることはありませんでした。

山科区では従来から高齢化に伴う課題、子育てをめぐる課題等があることや、近年多発する自然災害により地域住民の皆様への災害に対する不安の高まりからも、地域の助け合いに関する関心は高まっています。

第5期山科区地域福祉活動計画は、住民の皆様一人ひとりの思い・希望に応えるための取組の方向性を示すものとなっています。そして、言うまでもなく「計画」そのものが地域福祉を実現するものでなく、地域福祉を実現するのは、地域住民の方々、また、関係する機関・団体の皆様、社会福祉協議会の役職員の「思い」や「行動」です。

これまでの「思い」や「行動」が土台となり、地道な活動の積み重ねのなかで山科区の地域福祉が実現されています。地域住民の方々、関係者の皆様の思いを寄せ合い、「みんなが主役の福祉のまちづくり」に向けて“ワクワク(和く・輪く・沸く)”した取組を一緒になって進めてまいりましょう。

令和7年3月  
社会福祉法人 京都市山科区社会福祉協議会



遠の親戚より  
近の山科

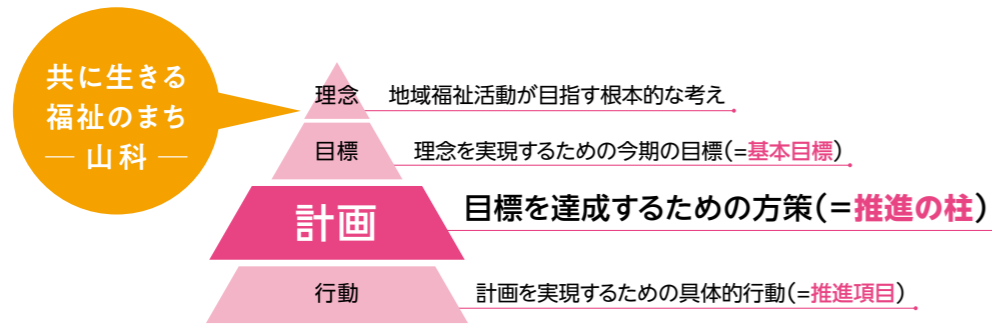
書：依 越山 先生(越前屋依太 氏)

# 第1章 地域福祉活動計画とは



## 1 計画の目的

山科区で暮らし、働き、学ぶ一人ひとりが、地域の仲間として、「共に生きる福祉のまち 山科」の実現に向け、各種団体・関係機関等とともに活動を推進していくための行動計画です。



## 2 計画の内容

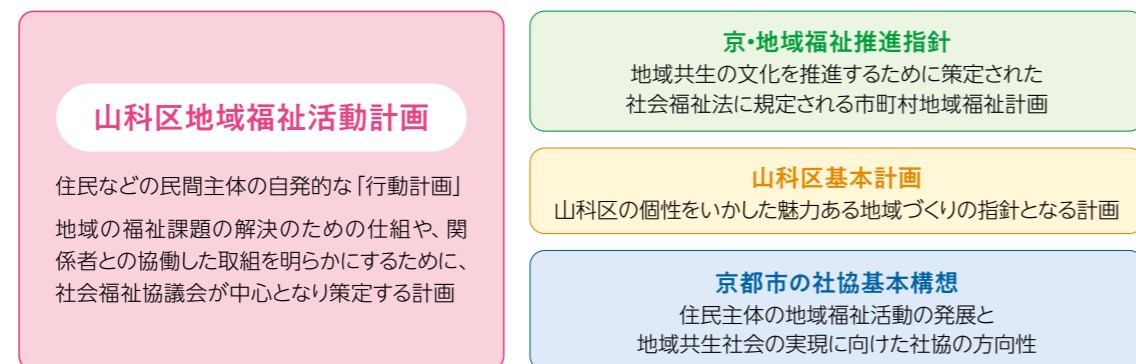
### 計画の期間

令和7(2025)年4月から令和12(2029)年3月までの5年間とし、第5期目となる計画です。



### 計画の位置づけ

山科区社会福祉協議会が、山科区で地域住民が主体となって取り組んでいく活動の具体的な内容を『地域福祉活動計画』として決めました。関係する計画等とは理念を共有し、連動・相補して地域福祉を向上させていきます。



## 3 計画の周知

山科区社会福祉協議会のホームページ、リーフレット等で内容を公表します。広く多くの人に届ける工夫をし、さまざまな世代への周知に努めます。

# 第2章

## 第4期山科区地域福祉活動計画の到達点



令和2(2020)年に策定した第4期山科区地域福祉活動計画では、少子高齢化や核家族化、価値観や生活の多様化に伴う個人主義の広がりにより、地域の住民同士のつながりが希薄化し、社会的な孤立・孤独の危惧がますます高まっていたこと、災害時における要配慮者への支援の必要性等を背景とした次のような基本目標・推進計画を立て取り組んできました。

### 1. あなたからつながろう、未来につなげよう

**基本目標 1** みんなが、地域に役割や生きがいを持って福祉のまちづくりに参加できる取組を進め、災害時の助け合いにも活かせる強いつながりづくりに努めます。

- 推進の柱 1** 地域を支えている福祉活動を見て・知って・関わる取組を進めます。
- 推進の柱 2** できる人が、できる時に、できる事で、お互いに支え合う活動を多様な形で広げます。
- 推進の柱 3** 子どもたちに「世代を超えて人とつながり支え合うことの大切さ」を伝えるために、地域や福祉に関わる機会を増やす取組を進めます。
- 推進の柱 4** 学区ごとに設定された重点目標の達成に向けて、学区に暮らすみんなの力で福祉のまちづくりを進めます。

### 2. ひとりじゃない、みんなで支えよう

**基本目標 2** さまざまな個人・団体・関係機関などが地域でつながり、住民の暮らしの充実や安心を実感できる仕組みづくりを進めます。

- 推進の柱 1** 生きづらさ・生活のしづらさを感じて困っている人に、それぞれの立場で関心を寄せる機会づくりを進めます。
- 推進の柱 2** 生きづらさ・生活のしづらさを感じて困っている人に、地域で身近な人が気づき、つなぎ、支える仕組みづくりを進めます。
- 推進の柱 3** 生きづらさ・生活のしづらさを感じて困っている人に、多様な関係者が関わり、支える関係づくりを進めます。

# 1 第4期山科区地域福祉活動計画期間における 主な取組や成果

第4期山科区地域福祉活動計画のもと、山科区は「地域で福祉を高める」意識の高い活動者が多く、特色ある活動が各所で行われました。

増え続ける単身高齢者の孤立防止を目的に、見守り活動や「通いの場」の活動、子ども食堂・学習支援等、地域で子どもを支える活動、生活困窮者世帯が抱える課題に向き合う活動など、課題意識を持って取り組まれる活動が広がっています。

また、社会福祉法人や企業による、地域貢献の取組も始められています。「みんなが主役の福祉のまちづくり」の具体化に向けて、地域住民・区社協・行政・支援関係機関等による支援体制の強化を着実に推進してきました。

しかし、地域活動の担い手不足や地域行事への参加者の減少・固定化、世帯構造や家族形態の変化、コロナ禍による地域や人間関係のつながりの希薄化等により、地域住民が直面する福祉課題の複雑化・複合化は進んでいます。

高齢者数も高齢化率も上昇を続け、認知症の方も増えています。令和7(2025)年から団塊の世代が後期高齢者となる時代となり、また8050問題・ヤングケアラー・不登校の顕在化に加え、新型コロナウイルス感染症がもたらした市民生活への影響なども考慮すれば今後、ひきこもりに関して地域住民が抱える課題は一層複雑かつ深刻になっていくおそれがあり、それに伴って、様々な保健福祉ニーズの高まりも見込まれます。

そのような中、課題を抱えた方が自ら声を上げられずに地域や社会から孤立し、事態が深刻化・長期化することが危惧されます。誰もが地域で自分らしく生き生きと暮らせる環境を整え、役割や生きがいを持って心豊かに過ごせる“地域共生社会”を実現することが求められています。

## 学区社協 (学区)

- 設定した学区重点目標が概ね達成されました。
- 学区内で住民の意見を聞く機会(アンケートや懇談会等)で地域課題を把握し、学区社協活動へ反映されました。
- 高齢者と子ども・若者の世代間交流など特色ある地域福祉活動が充実しました。
- 新型コロナに伴う地域福祉の取組への工夫から新たな形態の取組が生まれました。
- 活動再開による地域における、つながりづくりの増加やつながりの再構築に取り組みました。

## 学区社協 × 区社協 (学区) × (区)

- 生きづらさ、生活のしづらさを感じる方など、誰でも自由に参加できるフリースペース等の居場所が増加しました。
- その人の強みや好きなことを生かした地域活動が展開されました(参加支援)。
- 花壇プロジェクトを開始し、その人のできることを活かした支えあい活動が学区で広がりました。
- 企業や団体、関係機関との連携・協働によるつながりが生まれました。

## 区社協 (区)

- 「子どもの居場所づくり支援の輪事業」が開始されました。
- 地域支えあい活動創出事業等において、これまで福祉に関心はなかった方たちが新たな担い手として参画されました。
- コロナ禍の影響を受けた生活困窮者への支援に企業の地域貢献活動とも協力し取り組みました。

## 取組事例

### 企業と地域の連携

地域の高齢者等で外出が困難な方に対して、「買い物支援事業」を京都生協と(株)ダイエーの協力により開始されました。希望する商品や会場、周知などまだまだ改善点もありますが、**買い物**が難しい方たちの生活に役立てられています。



### 高齢者の居場所と大学生のコラボ

山階南学区や勸修学区、鏡山学区では、**学区社協が行ってきた居場所と大学生がコラボ**して、高齢者が集う居場所に大学生による企画が取り入れられました。レコード鑑賞会や歴史探訪など、**若者も高齢者も楽しめる特色ある活動**が行われました。



### コロナ禍でもつながりを絶やさない試み

コロナ禍に直接会って話せなくなったときにも、地域のつながりを絶やさず孤立を防ごうと、一部の学区社協やボランティア団体、区社協で「**おしゃべり電話事業**」が開始されました。希望する高齢者に定期的にボランティアがお電話でお話しすることで安否確認になっています。このように**コロナ禍でも地域では状況に合わせた新たな試みや工夫**が生まれました。



### 「好き」や「楽しい」からつながれる地域を目指して

区社協にて、生きづらさや生活のしづらさを抱える方の好きなことや得意なことを披露できるイベントとして、「**いろんな作品展**」を開催しました。当事者と地域の人が出会う機会となり、作品展を経て、地域のイベントで得意なことを披露するなど、**誰もが好きなことや強みを活かして参加できる地域づくり**が進められています。



### だれでも参加しやすい場づくり

誰でも自由に参加できる居場所「フリースペース」が新たに3か所開設され、区内で15か所の設置となりました。また、「誰でも参加でき、自由に過ごせる場所」という姿勢は共有しつつ、手芸、お茶の提供、朗読の披露など、それぞれの参加者の希望や好きなことを取り入れた活動が展開されました。



### 子ども、若者を地域で育てる

令和2年度から京都市社協・各区社協で「子どもの居場所づくり『支援の輪』サポート事業」を開始しました。山科区内では子どもの居場所立ち上げ相談が増加しており、令和2年度以降15か所以上が開設されています。また、山科区社協と「まちのちやぶ台ネットワーク山科」の共催で、担い手や活動に関心のある方の交流を目的としたイベントを開催し、のべ100人以上が参加しています。



### 楽しみながら、できることで、関われる活動 ～参加支援～

若年性認知症の男性の「自分もまだまだ活躍できる!」という声をきっかけに、地域でお花のお世話を通して緩やかにつながれる「花壇プロジェクト」を開始しました。“楽しみながら”“できることで”関われる活動として、これまで福祉活動に関心のなかった方たちも参加されています。また、お寺の敷地にプランターを置いたり、企業にも周知協力いただくなど、さまざまな団体との連携協働も進みました。



## 2 第4期山科区地域福祉活動計画期間で残された課題

一方で、地域福祉に関する情報については、学区社協、区社協とも様々な機会や新たなツールも活用して、地域福祉に接点の乏しかった住民や関係者への発信に努めましたが、まだまだ十分とは言えません。

地域福祉に触れ、楽しみ、関心を高め、暮らしに役立つよう、さらに質・量を充実し、タイムリーに発信する工夫などが必要です。

また、福祉教育プログラムを作成すること、より身近な小地域での見守り、支え合いを高めるような仕組みづくりなどは、具体的な着手には至りませんでした。

第4期地域福祉活動計画の全般にわたり共通する課題として、設定した取組のなかで達成すべき状態が具体的にイメージできないものであったり、方向性を指し示しただけの内容となっていたものについては、多くの場合は進捗が乏しい結果に終わったと言えます。

## 第3章

# 第5期山科区地域福祉活動計画の概要



## 1 第5期山科区地域福祉活動計画を策定するにあたってのポイント

第2章の到達点踏まえ、第5期山科区地域福祉活動計画では、第4期山科区地域福祉活動計画の基本目標などの多くを継続し、推進の柱や推進の項目はこの間の地域福祉を取り巻く状況を踏まえるとともに、次のような視点を重視した計画とします。

山科区で暮らし、学び、働き、活動する  
みんながワクワク『和く・輪く』して  
みんながワクワク『沸く』福祉のまちづくり

近所同士や町内のつながりが強く、仲間意識が根付いていることは地域福祉をはじめ私たちの地域を暮らしやすいものにする基本です。

その地域には子どもから若者、ご高齢の方、障害のある方、ない方、外国にルーツがある、最近になり山科区に住み始めた、特技やアイデアがある、これまで様々な経歴のある方といった多様な個性や背景のある人たちが暮らしています。また、施設や企業などで働く人たちも存在しています。

本計画の推進にあたっては、そんなたくさんの人たちと関係機関・団体が身近な町内で、学区で、そして区域でそれぞれ連携・協働して「たて・よこ・ななめ」につながり、お互いの強みを活かした多彩で、参加する側も担う側も楽しんで行われる活動を広げることをポイントに、地域福祉の充実を図ります。

そして、支援する、されるの垣根、活動する、参加するの区分を超えて、誰もが役割や生きがいを持ちながら、楽しく暮らし、心を豊かにする環境を整えることに挑戦し、ステップアップしながら、山科区らしい地域福祉の推進を目指します。

地域に暮らす一人一人の楽しさ、安心できる拠りどころとなるよう、互いに相手を大切にする「ワクワク(和く)」、相互に協力し合う「ワクワク(輪く)」、みんなで地域を盛り上げる「ワクワク(沸く)」を第5期地域福祉活動計画に共通するメッセージとしました。

また、次のページに山科区の地域の魅力や特性、それだけではなく住民の暮らしに関わる課題、これから本格化する地域福祉の政策的な動向なども考慮し、それらにもとづいて今後考えられる将来のイメージも踏まえながら、計画の策定をすすめました。

## 暮らしを取り巻く地域の状況

- 山科区としての一体感・連帯感が強い
- 地域愛が根付いている
- 人口減少が続き、少子化・高齢化が著しい
- 外国籍の住民が増えつつある
- 生活に困窮する世帯が増えつつある
- 地域活動・福祉活動の基盤となる自治会・町内会が低迷（一部で維持が困難、脱会・非加入の増加）
- 地域活動・福祉活動の担い手（継承者）の確保が課題
- 地域諸団体や区民のチャレンジ精神、学習意欲が高い
- 新型コロナウイルスの影響で地域福祉活動の休止（縮小）を余儀なくされた
- 一方で、活動の見直しを図るなど創意・工夫を重ねて活動を一新、回復途上にある
- 同じ学区内でも多様な地域性がある（歴史的背景、活動拠点へのアクセス、境界、勾配差、社会資源、住宅事情等）
- 困りごとのある人を放っておけない団体や人が熱心に活動している
- 住民の暮らしを支える活動が一部の団体や人に限られている
- 重層的支援体制整備事業※が本格化される

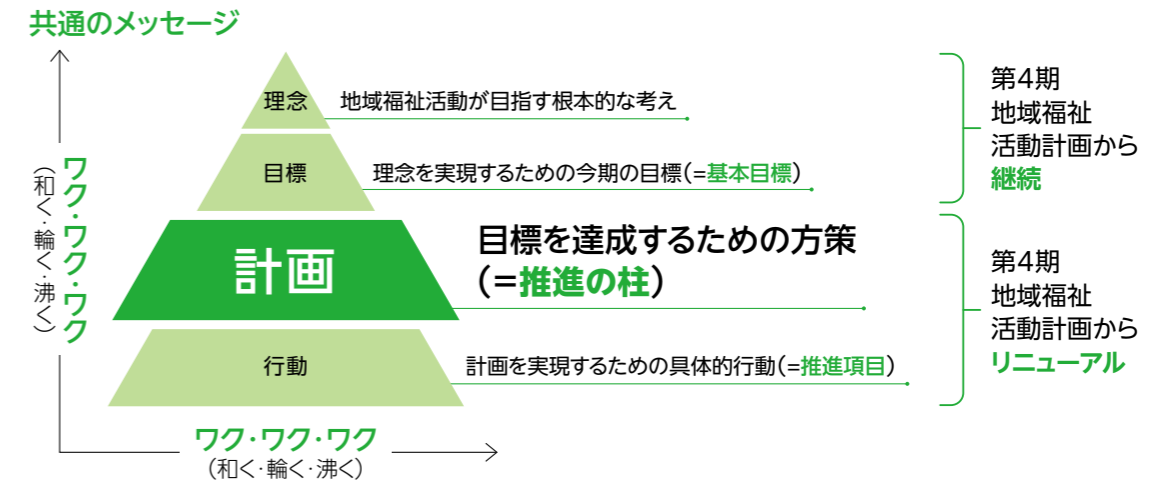
※「重層的支援体制整備事業」29ページ参照



## 予想される？ 将来像

- 山科区が一体となって、また学区において、さまざまなグループ・団体で地域・社会の課題解決や活性化に向けた取組にチャレンジできる可能性、しかもそれがユニークで独創的で担う側、参加する側ともに楽しい
- 高齢者同士で支え合うことがあたり前
- 学区組織に所属しない自治会・町内会が何割かにのぼる
- 一部の自治会・町内会では外国にルーツのある担い手も
- 身近につながることで、他者に関心を持つことの大切さが一層薄れてしまう
- 多様な住民に対するコミュニケーションなどの課題や摩擦の懸念、同時にそれを許容できる寛容さ
- 子ども、若者たちへの変わらない高い関心と期待
- 衣・食・住などの生活基盤が不十分な世帯がさらに増加
- 暮らしにかかわる身近な情報が行きわたらない
- 地域福祉を支える財源への協力が得られず十分に集まらない
- 近隣学区同士の協働の可能性
- 「相談支援」「参加支援」と「地域づくり支援」を一体的に行える素地

## 2 第5期山科区地域福祉活動計画の構成



基本理念と基本目標は第4期地域福祉活動計画を継続し、推進の柱、推進項目については継続するもの、改変するものなどリニューアルしました。また、全体に共通するメッセージを打ち出しています。





計画の本編に入る前に、次のコラムを読むことで、第5期山科区地域福祉活動計画の基礎にある意味合いについて、少しイメージをもっていただければと思います。

**地域あんしん支援員からみた、孤立孤独とは？**  
～当事者家族の声を手がかりに～

「孤立や孤独」と聞いて、どんな人やストーリーをイメージしますか？  
そして、私たちや地域でできることとは何なのでしょう。  
今回、地域あんしん支援員の支援をとおして出会ったご家族に、支援を振り返るインタビューを行いました。そこから、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

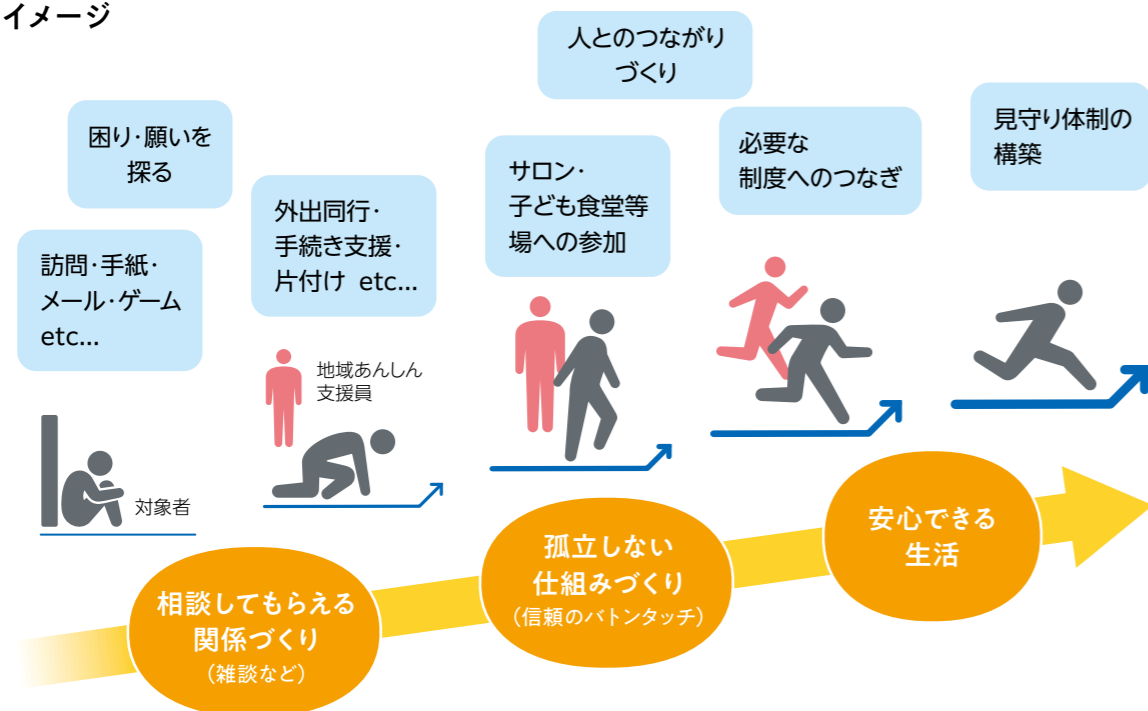
**地域あんしん支援員とは**

区社協に配置され、いわゆる「社会的孤立」等の状態にあり、福祉的な支援が必要であるにもかかわらず、既存の制度や地域だけでは対応が難しい福祉的課題を抱える方を対象に、支援をおこなう。

**「寄り添い支援」とは**

地域あんしん支援員の支援の特徴で、本人のペースを大切にしながら、丁寧に、ねばり強く信頼関係をつくり、課題解決や安定した生活を目指す支援。

**イメージ**



**1 登場人物のプロフィール**

**Aさん(おじ) 70代/山科区内在住**

- 仕事で挫折したことをきっかけに30年ほどひきこもって生活
- 言語障害と思われる状態で、会話をすることが難しい
- 長年、母と2人暮らしであったが、母が亡くなってから、自宅がごみであふれている

#8050問題  
#ひきこもり状態  
#障害

**Bさん(めい) 20代/山科区外在住**

- 親戚からお願いされ、5年以上にわたりAさんの安否確認、生活費、郵便物管理等のケアを行う
- Aさん(おじ)と会話がしづらいこともあり、「どのように対応すればいいかわからない」と悩んでいる

#若者ケアラー  
#地域のつながりの希薄化

**Cさん(近隣住民)**

Aさんを道でみかけることがあり、心配しているが、状況がわからず困惑している

**Dさん(民生委員)**

Aさんの自宅がゴミであふれていることが気になるが、これまで関わりがなく、訪問や支援が難しい

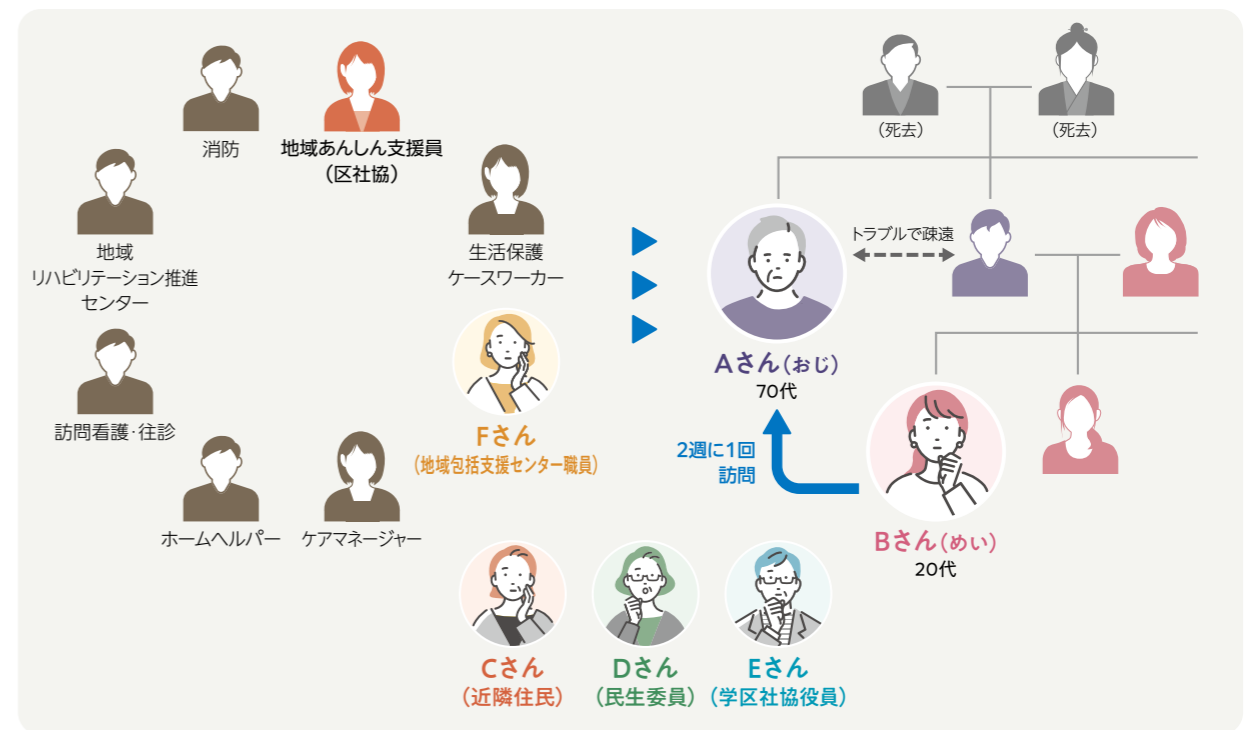
**Eさん(学区社協役員)**

Cさん(近隣住民)やDさん(民生委員)から、「Aさんが心配」と聞いており、気にかけている

**Fさん(地域包括支援センター職員)**

近隣住民から相談を受け、訪問したが、本人の思いや意思が確認しづらく、福祉サービスにすぐにつなぎにくい

※掲載内容は、個人情報保護のため一部加工しています



## 2 地域あんしん支援員のおおまかな支援の経過(ストーリー)

### 最初の相談

近隣住民より、地域包括支援センターへ「心配な人がいる」と相談が入り、地域あんしん支援員につながる。

### 繰り返し訪問

親族Bさん(めい)の訪問に複数回同行。Aさん(おじ)に顔を覚えてもらう。回数を重ね、あんしん支援員だけで訪問できるように。

### 現れた変化

Aさん(おじ)と筆談やイラストを使って会話し、生活状況などを把握。雑談中、徐々に笑顔が見られるように。

### 地域を視野に

関係機関に相談。Dさん(民生委員)、Eさん(学区社協役員)にも支援の状況を共有。Aさん(おじ)、Bさん(めい)、地域・支援者との顔つなぎの機会をつくる。

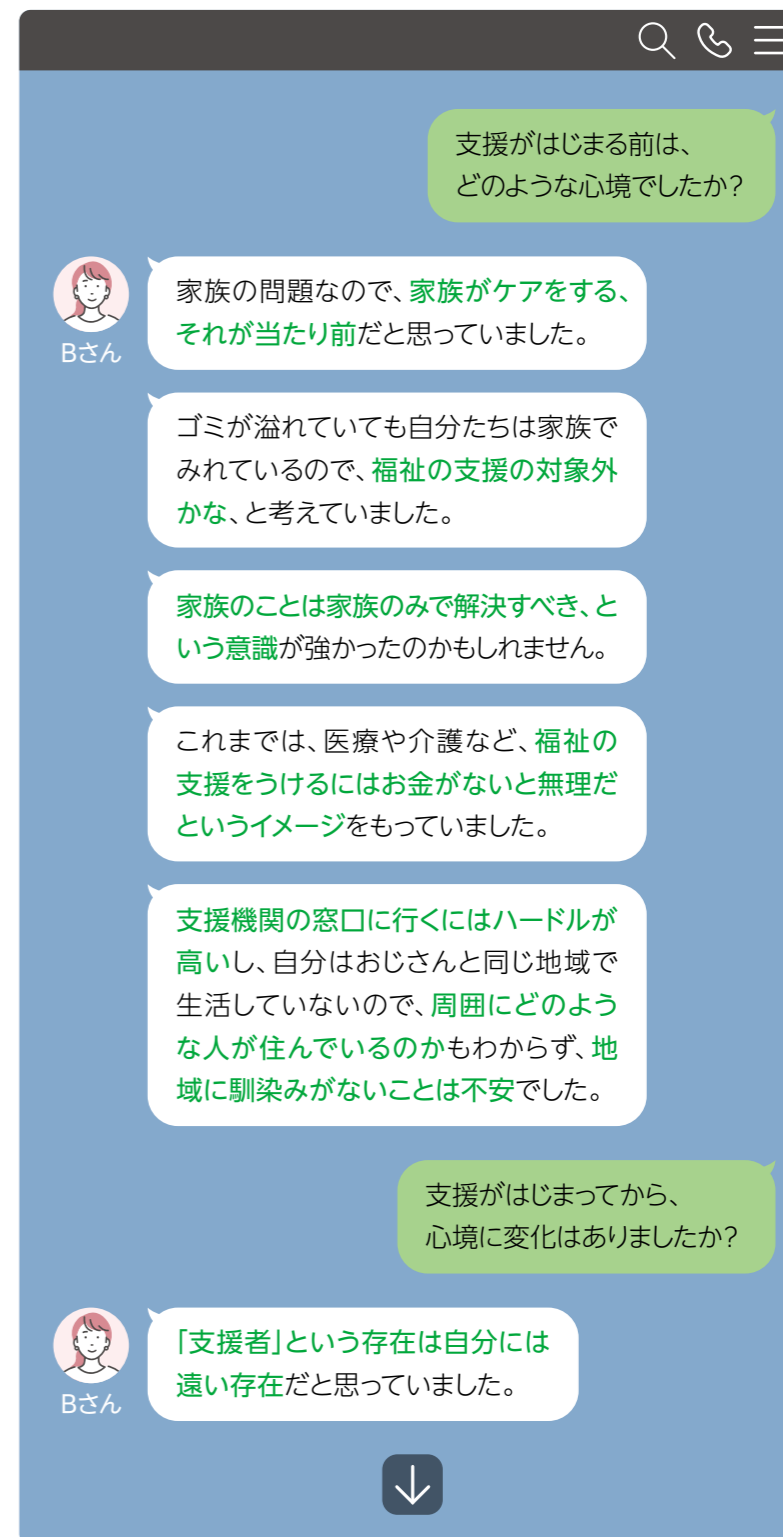
### 本人・家族・地域のあんしんへ

必要なサービスにつながり、ごみ堆積も解消。Bさん(めい)だけで支えてきたAさん(おじ)の暮らしに、福祉の支援と地域での見守りが加わった。

## 3 当事者家族『Bさん(めい)』へのインタビュー

### 寄り添い支援を振り返って、今思うこと

あんしん支援員の支援が始まるまで、親族のBさんは、生きづらさを抱える当事者家族として、いわゆる「若者ケアラー」状態となっていました。福祉の制度や地域の見守りなど、Aさんの生活が安定してきた今、思うことを聴いてみました。



自分一人で  
ケアを担わなくても  
よかったんだ



Bさん(めい)



Bさん  
支援者のみなさんがこんなに親身になってくれるのかとびっくりしました。

いろんな支援機関を教えてもらって、今までは目にとまらなかった地域包括支援センターなども、自分の地域ではここにあるんだな、など**生活の中で福祉(支援機関)を身近に感じる**ようになりました。

なるほど。ほかにはありますか？



Bさん  
今まで、おじさんとうまく会話が**できなくて悩んで**いました。

でも、家族以外の人がおじさんに関わっているところを初めてみて、**こんな声かけの仕方があるのかと新たな気づき**がありました。

あんしん支援員がおじさんの人となりや健康状態、生活の様子をキャッチして、筆談で会話をしてくれたり、イラストを見せながら説明してくれたりするのを見て、おじさんに**歩みよる方法がいろいろある**ことを教えてもらいました。

あんしん支援員がかかわりはじめてから、いろんな人との出会いがあったと思います。



Bさん  
そうですね。民生委員さんや**気にかけてくださる地域の皆さん**には特に感謝しています。

地域でのゆるやかな見守りは、おじさん(Aさん)にとっても私にとっても、大きな安心感になっています。



Bさん(めい)



民生委員さんの存在は知っておられましたか？



Bさん  
学校の授業などで習ったことがあって、知っていました。

でも、おじさんの暮らす地域で担当の方とお会いしたことはなかったです。

今、Bさんにとって地域のみなさんはどのような存在ですか？



Bさん  
Cさん、Dさん、Eさんと話をしていると、いつも、私たち家族の話なのに、**自分ごととして話を聞いてくれます**。

その**安心感がとても助け**になりましたし、こういった人たちが**地域にいてくれる**ことが心強いです。



Bさん  
おじさんは、きっと周囲から「よくわからない、怖い」と思われています。

でも、私やおじさんの状況、思いを伝えることで、おじさんと**地域のお互いの安心につながる**ことに気づきました。

**地域の方と気軽に話せる関係がある**こと、それを大切にすることが、自分たちにできることの1つだと感じています。

ありがとうございました!!

## 4 誰もが、安心して暮らせる地域社会の実現を目指して それぞれの思い

Aさん



(みんな)  
おおきに!



Cさん  
(近隣住人)

支援者の人につながったことを知れて安心しました。何かあれば、支援者の人にも相談しますね。

これからも近所で見かけたら様子をみます。あんしん支援員さんにAさんとの顔合わせも立ちあってもらったし、今度からは声かけやすいわあ。



Eさん  
(学区社協役員)

関わるきっかけは、あんしん支援員から気になる人(Aさん)を地域で知っている方はいませんか?と尋ねられたことでした。

そこから、民生委員や老人福祉員さんに話をして、みんなでAさんの様子を気にかけるようになりました。

ある時、Aさんのある困りごとを機に、Bさん(めい)と顔合わせをすることになり、Aさんに「多重支援」が必要なこと、Bさんのケアの負担感が大きいことを知りました。

そこから、看護師さん、ヘルパーさん、後見人さんと徐々に支援者が増えていったことは、Aさんに関わった者として「安堵」しました。

専門職、地域がタッグを組んで支援体制が整う様子は心強い限りです。



Bさん  
(めい)

家族として、おじさん(Aさん)と過ごした日々の中に笑いあった思い出があります。

単純に、ケアするケアされるという関係だけでない想いが家族にはあります。

私たちと同じように悩む家族にも、こういった事例があることを知ってほしいなと思っています。

きっと中にはしんどい思いをしながらもかまっていられない人も多いと思います。でもその気持ちも周囲との関係の中で変わっていくものだと思います。

家族同士だから言えないことも、他人から言えたり、素直に「ありがとう」と言えることがあるんじゃないかと、この経験を通して感じています。



Dさん  
(民生委員)

Aさんは、前に比べて、ずいぶん表情が穏やかになりました。警戒心が解けはったように思います。きっと今の生活を喜んでおられるんじゃないかな。

Bさん(めい)にはじめて会ったときの不安そうな顔が忘れられません。

私ひとりではたいしたことはできひんけど、福祉の専門職の人と役割分担して、みんなでAさんとBさんを見守ってあげたいんじゃないかな。

2人が今、ほっとしてくれてるなら、私もうれしいです。



地域あんしん支援員  
(区社協)

多くの人がAさんに関わってくれるようになりました。頻度や関わり方はそれぞれで違っても、その一つひとつが大切な要素だと思っています。

最初はコミュニケーションがとりづらく、やりとりがほとんどできなかったAさんが、今では訪問すると「おおきに」と言って、ハイタッチをしてくれるようになりました。

Bさん(めい)が、ケアを振り返り、語ってくれているときの表情も、出会った時と比べてほがらかだったことが印象的です。

Aさんの暮らしを応援する「チーム」をみんなで作ってくれたことが、みんなの安心につながるきっかけにもなっているように感じます。「福祉」の存在が誰にとっても気軽に身近なものであること、周囲の人とのつながりが安心して暮らせる地域づくりに大きく関係していることを再確認しました。

## 5 本編に向けて…

あなたの地域でこのような家族がいたら、何を思いますか?そして、どうしますか?

もし、あなたがAさんやBさんだったら…この地域の住民だったら…何を思い、どのような地域で暮らしたいですか。

さりげない声かけ、お互いを気にかけてあえるつながり、一人じゃないと思える温かさ、うれしい時や困った時に誰かの顔が浮かぶ地域…

このストーリーはきっと、あなたのすぐそばにもあるものではないでしょうか。

そして、次のページからの「基本目標」や「推進の柱」が、そのような支え合いの輪を創る一歩になるのではないのでしょうか。

これまで積み重ねてきた山科での「思い」を、次の5年にどのようにつなげていけるのか、みなさんの身近なエピソードも思い浮かべながら、『ワク(和く)・ワク(輪く)・ワク(沸く)』して読んでいただければと思います。

Point!

計画に込めたもの  
地域で、  
重層的な支援体制をつくる

日頃からの温かい繋がりが、生きづらさの深刻化を予防したり、回復にも繋がる…?!

ワクワクすること、暮らしの中の関心ごと、福祉や社会課題の解決にむけて…多様なタッチポイント(接点)が地域にあることが、つながりのセーフティネットを創る力になります。

Check ▶ P29「重層的支援体制整備事業」

基本理念

共に生きる福祉のまち — 山科 —

基本目標

1

あなたからつながろう、  
未来につなげよう

みんなが地域に役割や生きがいを持って  
福祉のまちづくりに参加できる取組を進め、  
災害時の助け合いにも活かせる  
強いつながりづくりに努めます

- ◆ 地域活動はすごく魅力的であり、地域活動でしか味わえない  
様々な感動を皆と一緒に共有できる場です。(地域福祉関係者)
- ◆ 家にいると息苦しくて。でも、行くところもないし。  
ボランティアで時間を有効活用できるならと思い来ました。(中学生)
- ◆ 能登半島地震の被害でさらに困りを抱えている要支援者の実情があります。  
普段から気になる家庭に声掛けすることを心掛けたいと思います。(一般区民)
- ◆ ボランティアを通して温かい人間関係を体験した。  
自分も変われそうな気がする。(支援対象者)
- ◆ 地域でこんなにも多くのボランティア活動があるなんて知らなかった。  
もっと早い時期から知っていたら参加できたのに!(支援対象者)

第5期 共通のメッセージ



ワクワク

和く

輪く

沸く



基本目標

2

ひとりじゃない、  
みんなで支えよう

さまざまな個人・団体・関係機関などが  
地域でつながり、  
住民の暮らしの充実や安心を実感できる  
仕組みづくりを進めます

- ◆ 私たち企業は、いつも地域の方にお世話になっているので、  
地域の方へ恩返ししたい。(企業)
- ◆ これまで困っている方を見つけても見てみぬふりをしていたかもしれない。  
相談できる場所があれば安心です。ぜひみんなで受け止めたいです。(一般区民)
- ◆ 私たちだけで支援するには限界があり、専門機関等が連携協働し、  
分野横断的に包括的な支援体制を構築することが  
今後必要になってくると思います。(専門職)
- ◆ 民生委員のことを、地域の方が『身近な相談者』として認識してくれて  
顔まで覚えてくれた。  
その後に居場所にも参加してくれるようになって嬉しかった。(民生委員)



基本目標  
1

みんなが地域に役割や生きがいを持って  
福祉のまちづくりに参加できる取組を進め、  
災害時の助け合いにも活かせる  
強いつながりづくりに努めます

推進の柱 1

地域を支えている福祉活動を、見て・知って・関わる取組を進めます

地域の福祉活動の楽しさ等を広く発信して、あらゆる世代の住民に理解を広めます。  
また、地域を支える一員として、地域の福祉活動を「自分事」としてとらえ、  
さまざまな形で参加できる機会の提供を行います。

推進項目

- ◆ 区社協や学区社協は地域の福祉活動に「誰もが楽しく参加できる」機会を企画・創出します。
- ◆ 区社協は関係機関とともに、限られた人だけのものとしての「福祉」ではなく、みんなが自分事として「福祉」にふれて考える機会を提供します。
- ◆ 区社協や学区社協の地域福祉活動を、身近に親しんでいただけるよう、さまざまな媒体で発信します。

推進の柱 2

できる人ができる時にできる活動を多様な形で広げます

あらゆる年齢層を対象に、「お互い様」の関係を広げる活動を促進します。  
そのため、お互いに「支え、支えられる」ことのできる地域、お互いの違いを「認め合える」地域を目指し、  
誰もが社会の一員として参加できる機会や取組をつくります。

推進項目

- ◆ 区社協は地域住民や関係機関、企業・団体等が手を取り合い、特に災害時の「助け合い」に生きるつながりを意識した取組を広げます。
- ◆ 区社協は支援する、されるの垣根、活動する、参加するの区分を超えて、その人の存在が尊重され、個性や経験が発揮できる機会や活動を創出します。
- ◆ 学区社協や地域関係者は「地域でつながることの大切さ」を子どもたちや若者たちが体感できるように、地域行事や福祉活動への参加を促進します。

推進の柱 3

学区ごとに設定された重点目標の達成に向けて、  
学区に暮らすみんなの力で福祉のまちづくりを進めます

推進項目

- ◆ 学区社協は、各学区の実情に合わせて設定した目標の達成に向けて、学区全体で取組を進めます。
- ◆ 区社協は学区重点目標の達成を支援するとともに、学区社協相互の交流と連携を図り、新たに学区の垣根を超えた地域福祉活動の運営や参加の促進を支援します。



学区	重点目標	具体的に取り組む内容
勸修	若手の育成と ベテランの若返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 若手におまかせして自由にやってみてもらうことで、次世代の担い手を育成する。</li> <li>● 今までのものを続けるだけでなく、新しい視点を取り入れる意識をつくる。</li> <li>● 「ここなら自分の得意を活かせる」をモットーに、気軽に楽しめる活動を継続していく。</li> </ul>
山階	三世代でつながりを一緒に ～常に一声、声かけを～	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小学校との連携事業、子ども見守り隊を軸に、子どもたちや若い世代など次世代との繋がりを継続、より充実した繋がり方の工夫を検討していく。</li> <li>● 学区社協の事業やかぎ預り事業など専門職とのネットワークが見守りの機会であることを大切に、互いに元気を与えあえる温かい地域づくりを行う。</li> <li>● 役員同士、福祉委員との助け合いやチームワークを大切に、取組を行う。</li> </ul>
鏡山	広報等の情報発信を充実させ、住民同士がつながれる取組をすすめ、地域内に学区社協の活動をひろめます  生活に寄りそって気くばり・目くばりを続けながら、あらゆる世代が集える新たな居場所作りに取り組めます	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SNSの活用を含む情報発信を充実させる。</li> <li>● 誰もが気軽に立ち寄れる新たな拠点づくりを目指す。</li> <li>● 地域住民の思いに寄りそった買い物支援を検討する。</li> <li>● 子どもから高齢者までみんなで一緒に花壇活動に取り組み、地域での顔なじみの関係を大切にする。</li> </ul>

学区	重点目標	具体的に取り組む内容
音羽	地域に密着 身近な小さなことから、学区の成果など様々な情報を繰り返し発信し続ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今までの積み重ねによる成果(ボランティアとしていろんな人が活躍してくれていること)を発信して関心を持ってもらう(見守りボランティアなど)。</li> <li>● 子どもから高齢者までが一緒に楽しくコミュニケーションが取れる行事を引き続き行う。</li> <li>● 住民同士や、学校や老人会などのさまざまな団体が、親近感を持って接し合える関係性を大切にする。</li> </ul>
安朱	新たな共生社会を目指す 子どもたちと共に、子育て世代と多くの高齢者や障がい者の方々、新しく住民になられた方がもっと近づける、活動できる、そんな事業や居場所がある地域共生社会を目指します	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分たちで成し遂げる達成感を大切にし、無理なく楽しく活動する体制づくりを確立する。</li> <li>● 定期的に行う事業は今まで通りに、単発で行う事業については目的・世代・男・女がとどいやすい内容を工夫し、学区民それぞれの好きや得意をきっかけに顔の見える関係をつくる。</li> <li>● 多層的な見守り体制をつくるために、若い世代とコミュニケーションを図り、アイデアを活かすこと、民協とも情報共有をすることを大切にする。</li> </ul>
陵ヶ岡	地域の高齢者との交流を密にする取組をどのようにすれば出来るのか考え、行動してみる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 町内にある掲示板等を利用して「社協」との繋がりを増やしていく。</li> <li>● フリースペースの会場にある「東屋(あずまや)」を利用して、みんなで楽しい一時を演出したい。</li> </ul>
大宅	子どもから高齢者までの交流機会を増やし、その関わりの中で地域の中で子どもを育てる風土づくりを進めます 多様な人が楽しみながら繋がり、お互いを知ることで、助け合える地域を目指します	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 機会あるたびに、学区内外で社協を知ってもらうよう努め、幅広い世代に社協活動への理解者を増やして、参加者や担い手につなげる。</li> <li>● 学校や各種団体、住民の協力を得ながら、多様な人が参加しやすく、楽しく交流できる工夫を心がける。</li> </ul>
山階南	地域で一つになろう! 顔なじみの関係づくりを推進し、全世代がつながる機会を増やします	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新しいアイデアを引き出し、小学校・中学校・児童館・大学・各種団体等との関係性を活かして、アイデアにチャレンジする。</li> <li>● 「好きなこと・興味のあること」を通じて楽しみながら活躍してもらえる場をつくる。そこから、見守りや高齢者同士がつながれる体制づくりを目指す。</li> <li>● 顔なじみの関係が災害時にも役立つことを意識しながら、社協の活動を知ってもらえるよう工夫する。</li> </ul>

学区	重点目標	具体的に取り組む内容
百々	組織・活動の活性化 ～みんなでいこか! 楽しく無理なく参加できるように～ 社協と民協を柱に 各種団体と密に連携する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各種団体と素早い情報共有ができ、協議しやすい体制を検討する。</li> <li>● 男性も活動に参加しやすくなる工夫をする。</li> <li>● ちよいボラの活動などで、若い人にボランティア精神を発揮してもらえる仕組みづくりに取り組む。</li> </ul>
大塚	ご近所みんなで「見守り、よりそい、支え合える」関係づくりを促します 地域で一体となって、関係機関とも連携しながら、福祉のさらなる充実に向けた取組をすすめます	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 関係機関と連携し、子どもを中心とした活動をすすめることで、分野・世代を超えた交流の機会を模索する。</li> <li>● 自治会や各種団体等と共に地域に目を向けてもらえるきっかけづくりを検討する。</li> </ul>
小野	各種行事への参加者を増やし、顔の見える関係づくりや担い手の確保に努める	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域に関心を向けてもらえるきっかけづくりについて各団体と連携しながら検討する。</li> <li>● すこやか学級や買い物支援(移動販売)での顔をみて安心できる関係を大切にする。</li> <li>● 活動の参加者と担い手の垣根を越えて、一緒に活動をつくっていく方法を模索する。</li> </ul>
音羽川	地域全体で子どもを見守り、全世代交流を通してみんなが挨拶しあえるような、助け合える地域づくりを行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 仲間づくりの場を提供し、気の合う仲間での活動が育まれる環境を整える。</li> <li>● 顔を合わせることを大切に、日頃のつきあいの延長で自然に助け合う関係をひろげる。</li> </ul>
西野	楽しく地域でボランティア活動ができる機会を増やします 住民が主体となって(住民参加型)さまざまなアイデアが活きる地域づくりをすすめます	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 身近な場所に、誰にでも居場所と出番がある地域を目指す。</li> <li>● 学区内にある福祉事業所等との連携を意識し、分野・世代を超えた交流イベントの再開を模索する。</li> </ul>

基本目標  
2

さまざまな個人・団体・関係機関などが  
地域でつながり、  
住民の暮らしの充実や安心を実感できる  
仕組みづくりを進めます

推進の柱 1

生きづらさや生活のしづらさを感じている当事者のことについて、  
関心を高める取組を行います

多くの山科区民や関係者に地域の生活・福祉課題を知り、理解してもらい、  
支援につなげるための取組を促進します。

推進項目

- ◆ 区社協は関係機関と、生きづらさや生活のしづらさのある当事者の問題を啓発・学習する機会をつくり、一人ひとりが地域でともに暮らす人への「気づき」を高める取組を促進します。
- ◆ 区社協や関係機関は、身近で変化に気づきやすい人(ご近所・福祉委員等)同士の関係づくりを促すとともに、気軽に相談できる窓口の情報を提供・発信します。

推進の柱 2

生きづらさや生活のしづらさを感じている人を支えるために、  
関係者は協力して必要な支援を行います

相談を受けた窓口だけでなく、住民の暮らしに関わる関係機関が相互に協力して、  
支援方策を検討し、当事者の課題解決に向けた取組をすすめます。

推進項目

- ◆ 区社協は区役所、関係機関とともに、自ら生きづらさや生活のしづらさを発信することが難しい住民の存在に常に留意しつつ、どんな相談に対してもしっかりと向き合い、高齢者、障害、子育て、若者、生活困窮、外国籍、まちづくりといった分野や領域で縦割りにすることなく、協力して課題解決にあたり、みんなで寄り添う支援を実践します。
- ◆ 区社協は地域の福祉関係者(学区社協、民生委員等)と連携し、本人(当事者)の「参加支援」、また「居場所づくり」などを意識し、地域とつながる機会、活躍できる場面をつくります。

関係資料



1 住民アンケート、ヒアリング等での声

第5期山科区地域福祉活動計画を策定するにあたり、

- 地域福祉活動に携わっている役員やボランティアの方
- 10歳未満の子どもたち
- 地域活動で出会った中高生、若者
- 乳幼児を子育て中のお母さん
- 障がいのあるお子さんのいる親御さん
- 専門職の支援を受けている方
- 地域の活動に毎回参加されている方、たまたまお立ち寄りされた方
- 住民の暮らしにかかわるさまざまな関係者



など多様な皆さんから、活動の場面や学習会、ヒアリング等の機会を通じて  
下記に関するご意見をお寄せいただき、計画づくりのベースとしました。

楽しかった地域の取組

こんな取組があったら行ってみたい!

安心して自分らしく楽しく過ごせる場はありますか?

それはどのような場所ですか?

地域のなかで助け合いを感じる場面

活動をすすめていくにあたって大切にしていることや課題



地域活動の  
魅力

- ◆ 地域活動は楽しくないと継続できない。「楽しい」が地域づくりでの重要なポイントになると思う。
- ◆ 地域活動をしていて嬉しかったことは、やっぱり「楽しかったわ」と言ってくれること。それが一番嬉しい。
- ◆ 作品づくりの企画を検討し始めたら、役員が想像以上に楽しんで頑張ってくれている。やりたいことがどんどん広がっていている。スタッフが楽しいと思っただことは続くと思感。

- ◆ 若い人がなかなか地域活動の担い手として入ってこない。若い担い手の方にも『地域活動でしか味わえない様々な感動』というものをみんなと一緒にリアルで体験してもらいたい。そうすればきっと若い担い手の方も地域活動への理解が深まると信じています。
- ◆ 楽しいことで足を運んでもらって、自然に、「来て楽しい」から福祉につながればいい。

担い手や  
人材

- ◆ 若い人のやろうとしていることを阻止しないという考えを持ちたい。何事も失敗してアップデートしていくものなので、若い人のやりたいこと、アイデアを採用していきたい。そのためにも、若い人の巻き込み方としてPTAとの連携を大切にしたい。
- ◆ 絵手紙の活動が始まったのは学区の中で講師がで

- ◆ きる人がいたから。いろんな人の活躍の場、いろんな人が来られる、がこれからのヒントだと思う。
- ◆ 山科は県外からの移住者も多い。地元でない何をしたいかわからないので、声をかけてほしいし、私たちも声をかけていくことが大切ではないかと思う。

居場所  
フリースペース

- ◆ 居場所カフェでは、障害への理解について『支える側』『支えられる側』という一方の関係ではなく、人と人、人と社会がつながり合う取り組みが生まれている。
- ◆ 薬局は薬を取りに行く場だけでなく、何もなくても気軽に立ち寄れる場になったらいいなと思っており、休みの日に薬局の場所を地域の居場所として活用で

- ◆ きるかもしれないと気づいた。私たち企業も何らかの形で地域と一緒に支え合うような繋がりが持てたらいいと思う。
- ◆ みんなで楽しく食事ができる場があれば行きたい。
- ◆ 中高生が勉強できるフリースペースが地域の中にあればいいな。

- ◆昔は近所のお豆腐屋さんや八百屋さんで井戸端会議があった。また子供も大人も自然に交流があることが自然な光景だった。しかし今はそんな光景を見ることが少なくなった。居場所やフリースペース等はそういった**井戸端会議や多世代交流のような役割を担っているのだ**と感じる。
- ◆フリースペースでもっと**自然に色々な方と交流**したいな。生活のしづらさを感じて困っている人の気持ちに寄り添いたい。そのようなことを学べる機会もあればいいな。
- ◆居場所に定期的に来てくれるからこそ、**その人の変化にも気づきやすくなる**。そのことが支えあいの地域づくりの良さでもある。
- ◆家族以外に、地域の中で居場所となる人が居てくれたり、**『自分がやらない』と思える役割が地域の中**でつくれたらどれだけ**素敵**だろうかと思えます。

- ◆自由に参加できる居場所が地域の中にかくさんあることで、子どもたちも**用事がなくても立ち寄り**など、**ふらっ**といける居場所になっている。
- ◆あそこに行けば誰かがいて、お話しできるので楽しみです。みんなに**居場所と活躍できる場**があるので、楽しいです。
- ◆おしゃべりできるのが**楽しみ**。家では**会話が少ないので…**。家族で話せないことも話せるし。話が盛り上がり**友人の輪がひろがる**こともうれしい。
- ◆地域の居場所へ一人で来る人もいる。休憩時間などに**たまたま隣の席になった人とお茶やお菓子を楽しみながらおしゃべり**がはずんでる様子を見ると、なんかいいなと思う。
- ◆地域に休憩できる場所が喫茶店を含め少ないと思う。そういった場所があれば病院にいくときに**『ここで待ておくね』と地域の集合場所**にもできる。

### 活動の参加者

- ◆**社会参加して笑える日**をつくらんと。たとえ1日でも楽しい活動に参加させてもらえてうれしい。
- ◆参加者の中にアコーディオンを持ってきて演奏してくれる人がいる。**みんなのBGM**になっている。
- ◆みんなで**お花を植える活動が楽しい**。やさしいお姉さんにお花の植え方を教えてもらったよ。
- ◆楽しいねえ。**若い人がいるだけで元気**になる。若い人と話せてよかった。
- ◆自分の**地域に生きづらさを感じている方がいるなんて**知らなかった。

- ◆**おしゃべりできる**ところがいい。自宅には家族はいるけどみんな日中外出していたり、生活リズムが違って話せる機会があまりないから**雑談できる場**があったらうれしい。
- ◆**地域の活動に出たらやさしい人に会える**けれど、足を悪くしてしまって自宅から外にでるのが難しい。そこを助けてくれたらうれしい。
- ◆押し花が楽しかった。家でも取り組みそう。**自分で好きなように作れるのが楽しい**。またしたい。
- ◆小さい子と会う機会がなかったから、今日は**元気な子どもと交流**できてよかった。

### ボランティア助け合い

- ◆みんなで協力しあっていききたい。**ボランティアさん等の力が必要**になることがあります。
- ◆ボランティアを通して**温かい人間関係を体験**した。自分も変われそうな気がする。
- ◆高齢者でいろいろなことがわからなくて困っているときがある。**誰もが当たり前**だと思うようなことでも、丁寧に教えてほしい。
- ◆足を悪くしてしまったけれど近隣の友達に車に乗せてもらって一緒に来ている。自分一人では来れないから**とても感謝**している。みんなに良くしてもらっている。
- ◆聴覚障害者の方に対して、**男子大学生が筆談で一生懸命コミュニケーション**を取ってくれた。学生本人も楽しかったとのこと。ありがとうございました!
- ◆ペットボトルの蓋を**近所の人**に開けてもらったことが助かりました。

- ◆駅などで視覚障害がある人を見かけたとき、様子を見守り**困って**いそうであれば声をかけてほしい。
- ◆**子どもと一緒に遊んでもらえ**ると助かる。
- ◆1人でもう1人の**子どもを見きれないときに遊んで**くれると助かるし、また子どものトイレ時に別の子どもを見てくれると助かる。
- ◆中学校で年に1回地域交流事業をしています。中学生が50名以上参加する取組みです。**中学生自身も和やかな助け合いのある地域でありたい**という思いを持っている。その思いを形にしていきたい。
- ◆行事のときに、大学生が**踊りの披露に加え、会場設営や片付け**でもとても力になってくれた。協力してもらえて本当に良かったと思っている。
- ◆自転車**トラブルがあった**ときに助けてもらったり、急な雨のとき傘を貸してもらった。

### 支援の対象者

- ◆**認知症があってもできる**ことはたくさんある。何か自分ができることで人を笑顔にしたい。
- ◆いつも**支援してもらっている立場**ですが、作品展示会がある時は、自分で作った作品が展示され、たくさんの方からすごいねと声を掛けられるので、この時は**自分が少し誇らしげ**に思う。
- ◆編み物をしたいと思っていた時、地域の編み物が得意な人が、フリースペースで教えてくれました。**とても嬉しかった**です。
- ◆自分が得意とする紙芝居を**地域で披露する場**があることで、**しんどい気持ちを忘れられます**。

- ◆自分の趣味でつくった折り紙の作品を地域イベントで**喜んでもらえたこと、褒めてもらったこと、はじめて**でした。本当に嬉しかったです。
- ◆隣の家の**おばちゃん**が、元気してるか?と声をかけてくれる。**声を聴くとほっと**します。
- ◆民生委員さんからずっと手紙をくれていた。**ほんま**いい人やな。**話しやすいわ**。
- ◆自分が投票したお花が実際に花壇に植えられるの**かな、見に行ってみようかな…**
- ◆歴史が好きです。山科の歴史を学べる場所があったら**行ってみたい**な…

### つながり交流

- ◆いつも登下校時におっちゃん**が声を掛けてくれる**ことが嬉しい。
- ◆子ども**とつながりができると、自然と親も笑顔で挨拶**してくれる。
- ◆退職した後に地域デビューをスムーズにするためには、**若い時からもっと地域に興味をもつべき**だ。
- ◆**地域でつながりをつくることは、とても楽しいこと**だと気づいた。
- ◆学校も家族も多忙で、**ゆっくり子どもの話を聴いてくれる人**って少ないね。
- ◆近所に知り合いがなくて、**子育ての悩みを一人で抱え込んで**しまっている親がいると思う。そういった人たちがどこかで話せる場があったらいいなと思うけれど、自分たちがどこまで踏み込んでいいのか…
- ◆**地域の子どもをみんなで育てると**言えるような**地域づくり**ができたらと思う。
- ◆しんどい人に何かしたいと思うけど大きなことをするには**実際難しい**。でも、やっぱり**挨拶ができる関係**をつくることからすべてがはじまる。それを続けていきたい。
- ◆みんなでご飯を食べられるって**幸せな**こと。**誰もがみんな、その機会がある地域**になるといいね。
- ◆**日頃より近所の方と交流**を深め互いを理解できる関係をつくり、気軽に何でも話せるようにしていきたい。
- ◆**近所の人**の**あたたかい声掛けや励まし**が嬉しい。
- ◆**近所の方が食事を差し入れ**してくれた。

- ◆お元気ですか、がんばろうね、と**声掛け**してくれることが嬉しい。
- ◆学校登校時に**見守りの声**かけてくれるおっちゃん**がいるので安心**できる。
- ◆コロナに感染したときに「大丈夫か、何かすることないか」等、**近所の方が声かけ**をしてくれた。また買い物時に重いものを運んでくれた。
- ◆家族や親戚も遠くに住んでいます。**体操の友人と30年の仲で唯一の友人**で、助かります。
- ◆**保育園と高齢者施設が交流する事業を再開**した。子どものお遊戯を見て高齢者が泣いて喜び、その高齢者の姿を見た子どもたちも同時に感動している、素敵な時間です。
- ◆**地域の季節行事が楽しい**です。特に、もちつきは子どもも楽しめて、色んな方と交流が出来て楽しかったです。
- ◆**『一緒に行こう』などの声掛け**。
- ◆見守り隊(や懇親会)をきっかけに**地域の人同士がしゃべりあ**うきっかけになっている。
- ◆買い物の移動販売で顔なじみの人ができた。20名くらいが利用されて、**お話ししたりして交流する場**になっている。みんな人としゃべりたいのだと思う。みんなの顔を見て安心できる。
- ◆外国籍の人が増えている。**外国籍の人も地域とつながれる、地域活動にアクセスしやすい工夫**ができればと思う。

### 当事者

- ◆家族介護している方等、**同じ立場の人と情報交換**できる場がほしい。
- ◆**介護の経験者の話を参考**にしたい。
- ◆障がい者の方も一緒に**地域での取り組みがあれば**嬉しい。
- ◆障害があってもなくても、みんなが暮らしやすい地域づくりが**『福祉』**であるので、**みんなの身近にもっと『福祉』**を感じてほしい。
- ◆**乳幼児が遊べる場所**がほしい。
- ◆支援が必要な子どもも、みんな分け隔てなく参加できるイベントがあれば助かります。

- ◆児童館で産後ケア体操をしている間、**地域の方が子供の面倒**をみてくれました。
- ◆一人で悩むことが多いと思うので、**相談**ができる場所があるといい、子育ての悩み相談をしたい。
- ◆**医療的ケア児や家族が、いろいろな経験**ができる場がもっとあればいいな。
- ◆ケアラ一条例制定によせて、医療的ケア児や障害のある人等**ケアが必要な人やその家族が困った時に、助けを求め**ることができる体制をどうつづけていけるだろうか。**SOSが出せずに最悪の事態になるまで人と接していない人も**多い。

### 生きがい趣味

- ◆**興味があることを学べ**るところがいい。歴史とか学べたら…
- ◆**工作**であそべるところがいい。
- ◆小物づくりが得意です。子ども食堂で**子どもたちに教える**ことならできますよ。
- ◆調理が好きだから**子ども食堂でご飯**をつくるくらい

- ◆なら自分にもできるかもしれない。
- ◆僕は、**かくれるのが得意**なので、かくれんぼや鬼ごっこを、みんなでしたいです。
- ◆趣味ができる場所がいい。コーラスとかが気になっている。取り組みやすく**て熱中できるものがあれば生活が豊か**になると思う。

### その他

- ◆**当たり前**のことですが、みなさん**沢山趣味**があって**人生を楽しんで**おられることが伝わってきて素敵だなと思いました。これまでどこか福祉を「他人事」のように自分が考えていたことに気づきました。
- ◆覆い隠された生きづらさ、**我々がまずすることは『知る』に尽きる**のではないかと。
- ◆**車いす体験**にて「車いすで段差をあがるのって怖いね…」[実際にのってみたいとわからないね][段差をあがる時は押す側は結構力があるんだなあ]
- ◆対人援助の場面ではどうしても「人」を一面的な部分

- ◆(クライアントは課題を抱えた方として捉える)で見えちゃうが、**『人』は地域生活の中で多面的に生活**をしているはずなので、もっと専門職自身が「人」を多面的に捉える必要がある。**何もできない人ではなく、〇〇が得意な人みたいなカタチで『人』を見る必要がある**。
- ◆**地域住民・児童相談所・区役所の職員同士などが連携**し、生きづらさを持つ人を支えることができ、そういった連携やエピソードを目の当たりにした実習生の学生から「自分もこういって仕事したい」と言ってくれた。

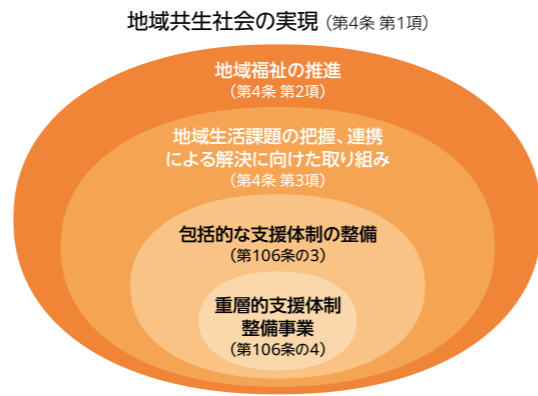
## 2 資料等

### 社会福祉法の概要

子ども、高齢者、障害のある方など全ての人々が、地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる「地域共生社会」の実現に向けて、平成30年4月1日施行の社会福祉法の改正において、地域の課題解決に向けた支援が、地域住民や福祉の関係機関の連携の下で包括的に提供されることを目指す、包括的な支援体制の整備が市町村の努力義務とされました。

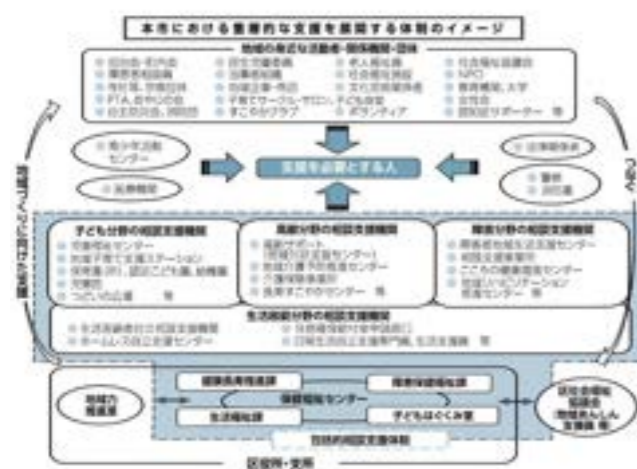
さらに、令和3年4月1日施行の社会福祉法の改正において、包括的な支援体制を整備するための具体的な事業として「重層的支援体制整備事業」が創設されました。

### 包括的な支援体制の整備と 重層的支援体制整備事業の位置づけ (社会福祉法第106条の4)



### 重層的支援体制整備事業

「重層的支援体制整備事業」とは、高齢、障害、子ども、生活困など従来の分野・属性別の支援体制では対応が困難な地域住民の複雑化・複合化した福祉課題や支援ニーズにきめ細やかに対応するため、市町村において、既存の支援体制や取組をいかしながら、分野・属性を問わない「相談支援」、社会とのつながりや参加を支援する「参加支援」、「地域づくりに向けた支援」の3つの支援を一体的に実施することにより、包括的な支援体制を整備することを目的とした事業です。



資料:京・地域福祉推進指針

京都市においては、「地域住民が直面する課題の複雑化・複合化が進む中、制度間の壁を低くして各区役所・支所保健福祉センター、支援機関等が連携・連帯し、本人や世帯の属性にかかわらず包括的に相談を受け止め協働して支援する体制を推進するとともに、本人や世帯に寄り添い、社会とのつながりを回復する支援を充実していきます。そして、地域における多世代の交流や多様な活躍の機会と役割を生み出す支援の充実と合わせて一体的に実施することで、人と人とのつながりを基盤としたセーフティネットを強化し、必要な支援が届いていない方を取りこぼすことなく、また、事態が深刻化する前に解決を図ることを目指していく」としています。

### 山科区の人口・世帯数の推移(学区別)

※上段:人口(人) 下段:世帯数(世帯) ※各年国勢調査

	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成19年	平成22年	平成27年	令和2年
勤修	14,336	12,002	12,591	12,904	12,419	12,704	13,197	12,918	12,777	12,360	12,166
	4,126	3,847	4,210	4,508	4,612	5,129	5,733	5,776	5,686	5,847	6,210
山階	15,306	15,545	8,490	8,076	8,165	7,642	7,315	7,282	7,363	7,479	7,956
	4,788	5,303	3,023	3,078	3,310	3,423	3,481	3,575	3,666	3,827	4,274
鏡山	16,356	15,355	14,517	13,824	14,081	13,617	12,906	12,914	12,874	12,621	12,517
	5,624	5,604	5,317	5,193	5,731	5,676	5,615	5,767	5,788	5,787	6,142
音羽	17,047	10,036	10,160	10,179	10,040	9,583	8,918	8,838	8,814	8,569	8,440
	5,323	3,445	3,445	3,668	3,877	3,882	3,847	3,959	3,995	4,045	4,202
安朱	7,662	7,032	6,777	6,244	6,014	6,237	6,286	6,214	6,276	6,241	6,427
	2,648	2,634	2,593	2,389	2,550	2,829	2,978	3,043	3,129	3,240	3,497
陵ヶ岡	14,233	12,901	12,005	11,953	11,514	11,279	11,384	11,111	10,823	10,544	10,232
	5,035	4,683	4,405	4,408	4,415	4,431	4,461	4,280	4,388	4,436	4,545
大宅	15,294	15,905	16,462	16,803	17,089	17,941	18,419	18,676	18,200	17,772	17,497
	4,247	4,843	5,105	5,653	6,108	6,589	7,167	7,513	7,389	7,650	8,168
山階南	10,013	10,468	10,473	10,603	10,792	10,381	10,219	10,098	10,758	10,732	10,795
	2,981	3,217	3,315	3,422	3,703	3,841	4,037	4,127	4,399	4,500	4,825
百々	11,475	12,148	12,127	11,678	11,736	11,598	11,585	11,672	11,675	11,393	11,284
	3,526	3,958	3,940	3,843	4,113	4,223	4,597	4,740	4,696	4,732	5,029
大塚	7,973	10,808	11,609	11,744	12,778	12,835	12,309	12,324	12,319	12,410	12,078
	2,448	3,507	3,638	3,832	4,417	4,617	4,735	4,888	4,980	5,097	5,368
小野	—	6,257	7,431	8,295	8,680	9,753	10,474	10,502	10,533	10,661	10,953
	—	2,148	2,334	2,696	2,984	3,468	4,039	4,154	4,228	4,501	5,001
音羽川	—	7,861	7,836	7,599	7,412	8,202	8,584	8,539	8,688	8,951	8,968
	—	2,711	2,754	2,725	2,724	3,239	3,521	3,613	3,683	3,950	4,124
西野	—	—	6,476	6,168	6,384	5,852	5,074	5,037	4,945	5,738	5,788
	—	—	2,220	2,220	2,407	2,394	2,218	2,275	2,294	2,736	2,895
山科区	129,695	136,318	136,954	136,070	137,104	137,624	136,670	136,125	136,045	135,471	135,101
	40,746	45,900	46,299	47,635	50,951	53,741	56,429	57,710	58,321	60,348	64,280
京都市	1,461,573	1,473,065	1,479,218	1,461,103	1,463,822	1,467,785	1,474,811	1,467,211	1,474,015	1,475,183	1,463,723
	477,296	523,708	534,821	552,535	586,647	620,327	653,860	666,224	681,581	705,874	729,524

山科区の人口増減

	平成12年	平成22年	令和2年	増減率 (H12→R2)
山科区	137,624	136,045	135,101	98.2%
勤修	12,704	12,777	12,166	95.8%
山階	7,642	7,363	7,956	104.1%
鏡山	13,617	12,874	12,517	91.9%
音羽	9,583	8,814	8,440	88.1%
安朱	6,237	6,276	6,427	103.0%
陵ヶ岡	11,279	10,823	10,232	90.7%
大宅	17,941	18,200	17,497	97.5%
山階南	10,381	10,758	10,795	104.0%
百々	11,598	11,675	11,284	97.3%
大塚	12,835	12,319	12,078	94.1%
小野	9,753	10,533	10,953	112.3%
音羽川	8,202	8,688	8,968	109.3%
西野	5,852	4,945	5,788	98.9%

山科区の世帯数増減

	平成12年	平成22年	令和2年	増減率 (H12→R2)
山科区	53,741	58,321	64,280	119.6%
勤修	5,129	5,686	6,210	121.1%
山階	3,423	3,666	4,274	124.9%
鏡山	5,676	5,788	6,142	108.2%
音羽	3,882	3,995	4,202	108.2%
安朱	2,829	3,129	3,497	123.6%
陵ヶ岡	4,431	4,388	4,545	102.6%
大宅	6,589	7,389	8,168	124.0%
山階南	3,841	4,399	4,825	125.6%
百々	4,223	4,696	5,029	119.1%
大塚	4,617	4,980	5,368	116.3%
小野	3,468	4,228	5,001	144.2%
音羽川	3,239	3,683	4,124	127.3%
西野	2,394	2,294	2,895	120.9%

山科区の高齢者人口増減

	平成12年	平成22年	令和2年	増減率 (H12→R2)
山科区	21,101	31,525	40,258	190.8%
勤修	1,881	3,157	4,200	223.3%
山階	1,107	1,718	2,142	193.5%
鏡山	2,209	3,193	3,716	168.2%
音羽	1,503	2,090	2,794	185.9%
安朱	1,194	1,435	1,566	131.2%
陵ヶ岡	3,395	3,894	3,984	117.3%
大宅	2,365	3,686	4,868	205.8%
山階南	1,207	2,288	2,870	237.8%
百々	1,502	2,511	3,422	227.8%
大塚	1,678	2,519	3,734	222.5%
小野	1,062	1,844	2,780	261.8%
音羽川	1,188	1,845	2,302	193.8%
西野	810	1,345	1,880	232.1%

山科区の高齢化率の推移

	平成12年	平成22年	令和2年	増減率 (H12→R2)
山科区	15.3%	23.4%	31.4%	16.1%
勤修	14.8%	24.9%	34.5%	19.7%
山階	14.5%	23.7%	26.9%	12.4%
鏡山	16.2%	25.2%	29.7%	13.5%
音羽	15.7%	23.9%	33.1%	17.4%
安朱	19.1%	23.3%	24.4%	5.3%
陵ヶ岡	30.1%	36.4%	38.9%	8.8%
大宅	13.2%	20.4%	27.8%	14.6%
山階南	11.6%	21.3%	26.6%	15.0%
百々	13.0%	21.6%	30.3%	17.4%
大塚	13.1%	20.6%	30.9%	17.8%
小野	10.9%	17.7%	25.4%	14.5%
音羽川	14.5%	21.3%	25.7%	11.2%
西野	13.8%	27.3%	32.5%	18.7%

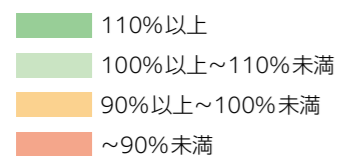
	平成12年	平成22年	令和2年	増減率 (H12→R2)
京都市	1,467,785	1,474,015	1,463,723	99.7%
北区	126,125	122,037	117,165	92.9%
上京区	84,187	83,264	83,832	99.6%
左京区	171,556	168,802	166,039	96.8%
中京区	95,038	105,306	110,488	116.3%
東山区	44,813	40,528	36,602	81.7%
山科区	<b>137,624</b>	<b>136,045</b>	<b>135,101</b>	<b>98.2%</b>
下京区	71,212	79,287	82,784	116.3%
南区	97,820	98,744	101,970	104.2%
右京区	195,573	202,943	202,047	103.3%
西京区	155,928	152,974	149,837	96.1%
伏見区	287,909	284,085	277,858	96.5%

	平成12年	平成22年	令和2年	増減率 (H12→R2)
京都市	620,327	681,581	729,524	117.6%
北区	55,514	56,406	57,187	103.0%
上京区	39,951	43,389	48,004	120.2%
左京区	77,826	82,067	85,726	110.2%
中京区	44,798	55,772	60,634	135.3%
東山区	21,238	21,114	20,562	96.8%
山科区	<b>53,741</b>	<b>58,321</b>	<b>64,402</b>	<b>119.8%</b>
下京区	34,134	43,651	48,309	141.5%
南区	40,508	45,036	50,485	124.6%
右京区	80,385	90,808	97,849	121.7%
西京区	56,876	61,420	65,082	114.4%
伏見区	115,356	123,597	131,284	113.8%

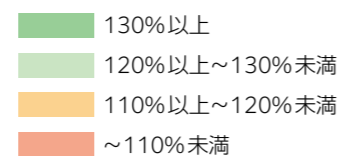
	平成12年	平成22年	令和2年	増減率 (H12→R2)
京都市	252,963	330,047	394,406	155.9%
北区	23,520	28,551	32,695	139.0%
上京区	18,713	20,330	22,094	118.1%
左京区	31,778	38,490	44,736	140.8%
中京区	19,511	22,841	25,905	132.8%
東山区	11,418	11,951	11,489	100.6%
山科区	<b>21,101</b>	<b>31,525</b>	<b>40,258</b>	<b>190.8%</b>
下京区	16,305	17,214	17,827	109.3%
南区	16,326	20,899	25,594	156.8%
右京区	31,663	45,918	54,886	173.3%
西京区	19,534	30,572	40,301	206.3%
伏見区	43,094	61,756	78,621	182.4%

	平成12年	平成22年	令和2年	増減率 (H12→R2)
京都市	17.4%	23.0%	28.2%	10.8%
北区	18.8%	24.3%	29.6%	10.8%
上京区	22.4%	25.2%	27.2%	4.8%
左京区	18.8%	23.6%	28.1%	9.3%
中京区	20.9%	23.4%	24.7%	3.8%
東山区	25.5%	30.0%	32.9%	7.4%
山科区	<b>15.3%</b>	<b>23.4%</b>	<b>31.4%</b>	<b>16.1%</b>
下京区	23.0%	22.7%	22.9%	△0.1%
南区	16.9%	21.2%	25.8%	8.9%
右京区	16.6%	23.1%	28.9%	12.3%
西京区	12.5%	20.2%	28.4%	15.9%
伏見区	15.0%	22.1%	29.2%	14.2%

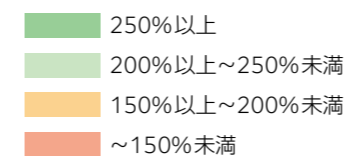
平成12年→令和2年(20年)の人口増減比率



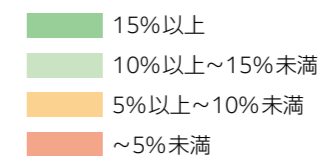
平成12年→令和2年(20年)の世帯数増減比率



平成12年→令和2年(20年)の高齢者人口増減比率



平成12年→令和2年(20年)の高齢化率増減比

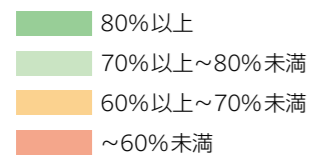


山科区の年少者人口増減

	平成12年	平成22年	令和2年	増減率 (H12→R2)
山科区	18,348	16,807	13,713	74.7%
勸修	1,809	1,632	1,045	57.8%
山階	904	731	783	86.8%
鏡山	1,700	1,518	1,275	75.0%
音羽	1,102	911	786	71.3%
安朱	669	639	585	87.4%
陵ヶ岡	1,012	1,003	807	79.7%
大宅	2,538	2,136	1,611	63.5%
山階南	1,485	1,628	1,389	93.5%
百々	1,516	1,700	1,272	83.9%
大塚	1,954	1,690	1,261	64.5%
小野	1,601	1,511	1,165	72.8%
音羽川	1,162	1,161	1,020	87.8%
西野	896	547	714	79.7%

	平成12年	平成22年	令和2年	増減率 (H12→R2)
京都市	185,896	171,090	153,005	82.3%
北区	14,995	13,425	11,696	78.0%
上京区	8,060	7,715	7,021	87.1%
左京区	18,930	17,430	17,068	90.2%
中京区	9,670	10,350	11,312	117.0%
東山区	3,548	2,836	2,716	76.6%
山科区	<b>18,348</b>	<b>16,807</b>	<b>13,713</b>	<b>74.7%</b>
下京区	6,960	7,428	7,767	111.6%
南区	13,151	12,103	11,471	87.2%
右京区	25,448	24,374	21,865	85.9%
西京区	25,202	21,845	18,247	72.4%
伏見区	41,584	36,777	30,129	72.5%

平成12年→令和2年(20年)の年少者人口増減比率

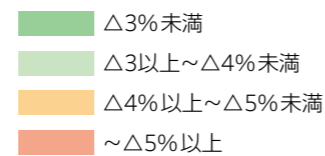


山科区の年少者率の推移

	平成12年	平成22年	令和2年	増減率 (H12→R2)
山科区	13.3%	12.5%	10.2%	△3.1%
勸修	14.2%	12.9%	8.6%	△5.6%
山階	11.8%	10.1%	9.8%	△2.0%
鏡山	12.5%	12.0%	10.2%	△2.3%
音羽	11.5%	10.4%	9.3%	△2.2%
安朱	10.7%	10.4%	9.1%	△1.6%
陵ヶ岡	9.0%	9.4%	7.9%	△1.1%
大宅	14.2%	11.8%	9.2%	△5.0%
山階南	14.3%	15.2%	12.9%	△1.4%
百々	13.1%	14.6%	11.3%	△1.8%
大塚	15.2%	13.8%	10.4%	△4.8%
小野	16.4%	14.5%	10.6%	△5.8%
音羽川	14.2%	13.4%	11.4%	△2.8%
西野	15.3%	11.1%	12.3%	△3.0%

	平成12年	平成22年	令和2年	増減率 (H12→R2)
京都市	12.7%	11.9%	10.5%	△2.2%
北区	11.9%	11.4%	10.1%	△1.8%
上京区	9.6%	9.6%	8.5%	△1.1%
左京区	11.0%	10.7%	10.3%	△0.7%
中京区	10.2%	10.6%	10.3%	0.1%
東山区	7.9%	7.1%	7.4%	△0.5%
山科区	<b>13.3%</b>	<b>12.5%</b>	<b>10.2%</b>	<b>△3.1%</b>
下京区	9.8%	9.8%	9.4%	△0.4%
南区	13.4%	12.3%	11.3%	△2.1%
右京区	13.0%	12.3%	10.9%	△2.1%
西京区	16.2%	14.4%	12.3%	△3.9%
伏見区	14.4%	13.2%	10.9%	△3.5%

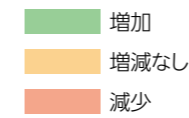
平成12年→令和2年(20年)の年少者人口率増減比



京都市の母子世帯数増減

	平成12年	平成22年	令和2年	増減率 (H12→R2)
京都市	8,132	9,793	6,644	△1,488
北区	541	523	414	△127
上京区	348	363	419	71
左京区	663	679	502	△161
中京区	379	506	501	122
東山区	196	202	129	△67
山科区	<b>923</b>	<b>1,143</b>	<b>738</b>	<b>△185</b>
下京区	305	345	305	0
南区	644	993	504	△140
右京区	1,131	1,545	849	△282
西京区	881	1,047	659	△222
伏見区	2,121	2,447	1,624	△497

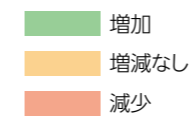
平成12年→令和2年(20年)の母子世帯増減比



京都市の外国人数増減

	平成12年	平成22年	令和2年	増減率 (H12→R2)
京都市	34,737	32,620	39,386	4,649
北区	2,287	1,986	2,380	93
上京区	1,331	1,692	2,725	1,394
左京区	4,618	4,736	6,288	1,670
中京区	1,873	1,706	2,453	580
東山区	717	663	1,008	291
山科区	<b>1,785</b>	<b>1,718</b>	<b>2,085</b>	<b>300</b>
下京区	1,202	1,250	2,300	1,098
南区	6,083	4,565	5,095	△988
右京区	5,393	4,730	4,618	△775
西京区	3,008	2,732	2,518	△490
伏見区	6,440	6,842	7,916	1,476

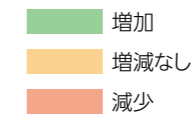
平成12年→令和2年(20年)の母子世帯増減比



京都市の父子世帯数増減

	平成12年	平成22年	令和2年	増減率 (H12→R2)
京都市	921	895	604	△317
北区	78	53	47	△31
上京区	31	24	54	23
左京区	76	87	47	△29
中京区	52	53	43	△9
東山区	17	25	19	2
山科区	<b>102</b>	<b>97</b>	<b>57</b>	<b>△45</b>
下京区	34	28	24	△10
南区	103	119	41	△62
右京区	105	144	84	△21
西京区	99	79	42	△57
伏見区	224	186	146	△78

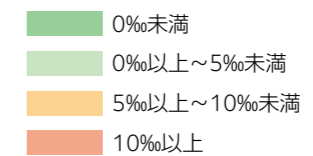
平成12年→令和2年(20年)の父子世帯増減比



京都市の生活保護率増減

	平成15年	平成25年	令和4年	増減率 (H15→R4)
京都市	25.3%	32.3%	28.0%	2.7%
北区	13.5%	19.9%	17.6%	4.1%
上京区	12.9%	20.2%	20.5%	7.6%
左京区	14.7%	18.0%	16.0%	1.3%
中京区	17.0%	23.0%	19.1%	2.1%
東山区	35.8%	45.2%	34.4%	△1.4%
山科区	<b>25.9%</b>	<b>42.0%</b>	<b>40.5%</b>	<b>14.6%</b>
下京区	34.9%	30.4%	21.0%	△13.9%
南区	43.9%	51.3%	40.1%	△3.8%
右京区	17.9%	26.7%	24.4%	6.5%
西京区	17.3%	24.4%	20.9%	3.6%
伏見区	36.1%	49.0%	42.8%	6.7%

平成15年→令和4年(19年)の生活保護率増減比



### 3 第5期 山科区地域福祉活動計画策定の経過

#### 1. 地域課題・活動動向の把握(随時)

学区社会福祉協議会・各種団体・各種ネットワーク・地域福祉活動へのヒアリング・  
住民アンケート・当事者インタビュー 等

#### 2. 策定のための協議・検討の経過

時期	会議等	テーマ等
令和6年4月～毎月	正副会長会議	第5期地域福祉活動計画策定進捗状況
令和6年5月23日	第1回学区社協会長会議	第5期地域福祉活動計画策定に向けて
令和6年5月28日	第1回理事会・評議員会	第5期地域福祉活動計画策定に向けて
令和6年6月14日	第1回山科区地域福祉推進委員会	第5期地域福祉活動計画策定に向けて
令和6年7月18日	第2回学区社協会長会議	学区社協ヒアリング状況共有
令和6年9月26日	第3回学区社協会長会議	学区社協重点目標について協議
令和6年11月21日	第4回学区社協会長会議	学区社協重点目標について共有
令和7年1月23日	第5回学区社協会長会議	第5期地域福祉活動計画について
令和7年2月21日	第2回山科区地域福祉推進委員会	第5期地域福祉活動計画について
令和7年3月14日	第6回学区社協会長会議	第5期地域福祉活動計画について
令和7年3月25日	第2回理事会・評議員会	第5期地域福祉活動計画について

#### 3. 策定の関係者

山科区社会福祉協議会 理事会

役職	氏名	所属
会長	内海 敏	鏡山学区社会福祉協議会会長
副会長	北村 秀明	勤修学区社会福祉協議会会長
副会長	倉橋 修	山階南学区社会福祉協議会会長
副会長	前坂己美子	山科区民生児童委員会会長
理事	中澤 博子	安朱学区社会福祉協議会会長
理事	地野 隆	西野学区社会福祉協議会会長
理事	渡邊 昭子	山科身体障害者福祉会館館長
理事	木下 文男	山科区身体障害者団体連合会会長
理事	栗津 昭夫	山科区老人クラブ連合会会長
理事	林 弘	山科区共同募金委員会会長
理事	佐伯 久子	山科区地域女性連合会会長
理事	谷口 勝	山科区自治連合会連絡協議会会長代表
理事	川中 長治	山科経済同友会会長
理事	青木 重雄	山科区役所保健福祉センター長
理事	松本 賢哉	京都橘大学看護学部教授
監事	澤田 眞司	税理士
監事	吉澤 英樹	社会福祉法人役員
監事	西村 京三	社会福祉行政経験者

#### 学区社協会長会議

役職	氏名	所属
会長	北村 秀明	勤修学区社会福祉協議会
会長	住友 正歳	山階学区社会福祉協議会
会長	内海 敏	鏡山学区社会福祉協議会
会長	酒井 孝順	音羽学区社会福祉協議会
会長	中澤 博子	安朱学区社会福祉協議会
会長	吉田 義明	陵ヶ岡学区社会福祉協議会
会長	北村 伸史	大宅学区社会福祉協議会
会長	倉橋 修	山階南学区社会福祉協議会
会長	前坂己美子	百々学区社会福祉協議会
会長	藤澤 雅之	大塚学区社会福祉協議会
会長	堀井 崇男	小野学区社会福祉協議会
会長	澤田 清一	音羽川学区社会福祉協議会
会長	地野 隆	西野学区社会福祉協議会

#### 地域福祉推進委員会

役職	氏名	所属
委員長	内海 敏	京都市山科区社会福祉協議会 会長
副委員長	宮本 昭宏	京都市山科区社会福祉協議会 事務局長
監事	地野 隆	山科区民生児童委員会 副会長
委員	池田美千子	山科区民生児童委員会 主任児童委員
委員	銭谷富士子	山階保育園 園長
委員	野村なおみ	花山児童館 館長
委員	宮川 知子	山科青少年活動センター 所長
委員	勇川 昌史	就労継続支援B型事業所 オリーブホットハウス 施設長
委員	山下 笑子	京都市東部障害者地域生活支援センター らくとう主任
委員	小林 大介	特別養護老人ホーム長楽園 副施設長
委員	伊藤 誠一	勤修地域包括支援センター センター長
委員	木下 文男	山科区身体障害者団体連合会 会長
委員	田中 宣	京都手をつなぐ育成会東部支部 支部長
委員	土田 絹枝	山科区老人クラブ連合会 副会長
委員	佐伯 久子	山科区地域女性連合会 会長
委員	平野 一男	山科少年補導委員会 副会長
委員	高須 雅史	山科医師会 会長
委員	谷口 勝	山科区自治連合会連絡協議会会長 代表
委員	川中 長治	山科経済同友会 会長
委員	小松 澄子	山科ボランティアグループ連絡会 代表
委員	板野美由紀	山科子育て応援団 だんごやましくらぶ 代表
委員	村井 琢哉	山科醍醐こどものひろば
委員	谷本 史朗	小学校校長会山科支部(大塚小学校校長)
委員	村田 和之	中学校長会山科・醍醐支部(勤修中学校校長)
委員	松本 賢哉	京都橘大学 看護学部看護学科 教授
委員	百瀬 俊郎	山科区役所 地域力推進室 室長
副委員長	青木 重雄	山科区役所 保健福祉センター センター長
委員	木咲 圭二	山科区役所 子どもはぐくみ室 室長



子どもから高齢の方まで、  
たくさんのお声を聴きながら策定しました。  
次の5年にむけて、今はまだ出会えていない人とも  
一緒に創っていける福祉のまちでありますように。



令和7(2025)年3月 発行

## 第5期 山科区地域福祉活動計画

社会福祉法人 京都市山科区社会福祉協議会

〒607-8344 京都市山科区西野大手先町2-1

TEL.075-593-1294 FAX.075-594-0294